

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1491000681
法人名	医療法人社団 平平會
事業所名	グループホーム ふあいと戸塚ガーデン
訪問調査日	令和6年3月26日
評価確定日	令和6年4月17日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000681	事業の開始年月日	平成30年10月1日	
		指定年月日	平成30年10月1日	
法人名	医療法人社団 平平會			
事業所名	グループホーム ふあいと戸塚ガーデン			
所在地	(〒244-0816)			
	横浜市戸塚区上倉田町2116-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	27名	
		ユニット数	3ユニット	
自己評価作成日	令和6年3月18日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1trus&IiyosyoCd=1491000681-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で様々な制限がある中、インターネット上での面会や動画視聴等を使用し様々なジャンルの情報を取り入れレクリエーション等に反映している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月26日	評価機関 評価決定日	令和6年4月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、医療社団法人平平會の経営です。同法人は、系列法人の株式会社白寿会と共にグループ法人として、横浜、川崎、鎌倉市内にてグループホーム12事業所を運営する他、小規模多機能型居宅介護、訪問介護ステーション、クリニックなど介護関係の事業を展開しています。ここ「グループホームふあいと戸塚ガーデン」は、JR戸塚駅からバスで10分徒歩2分のバス通りに面した小規模多機能型居宅介護事業所が併設された3ユニット定員27名のグループホームです。

●事業所では、「お互いを尊重しあい笑顔を絶やさず優しい気持ちで接します。」を運営方針として各ユニットに掲げています。管理者は、利用者へ、「メリハリのある生活」を過ごしていただくため、日常の散歩が欠かさないとし、散歩の時間を生活パターンの中に組み込むことを職員に促し、天候が良いときは、午後の食後の時間に散歩へお連れしています。また介護の経過記録に医療・看護に用いられる「SOAP」方式を採用し、S-主観的情報(利用者からの情報) O-客観的情報(職員の観察・対応情報) を記録し職員間で検討しA-評価・P-計画に結びつけています。利用者毎のデータを蓄積し、利用者の意向の把握や介護計画立案に役立っています。

●コロナ禍を契機として、SNSの利用が発展し、利用者にはユーチューブによる様々な興味深いジャンルの情報を取り入れ脳トレ、漢字クイズ、音楽入りの体操番組などレクリエーションに反映させています。家族との連絡は、電話だけでなくメールやラインでも情報交換を行い、遠方で来訪しづらい家族、海外に在住している家族には、Skypeやzoomを利用しての面会を実施するなど、現代社会に即した方法を取り入れながら、対応しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ふあいと戸塚ガーデン
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互いを尊重しあい笑顔を絶やさず優しい気持ちで接します」との施設目標を掲げ、ホームに関わる全ての職員が入居者と同じ目線で生活が営める様、取り組んでいます。	事業所の運営目標「お互いに尊重し合い、笑顔を絶やさず優しい気持ちで接します」を各ユニットに掲げ、事業所に関わるすべての職員が利用者と同じ目線で生活が営めるよう取り組んでいます。各ユニットの事務室横の通路の壁に出勤者の顔写真を貼りだし、利用者に職員の名前と顔を覚えてもらうよう工夫されています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて自粛中	開所してすぐにコロナ禍になり、自治会には加入していませんが、日常の散歩を通して地域の方々と挨拶を交わしたり、地域ケプラザのイベントに出向いた際の交流はあります。運営推進会議では、民生委員との情報交換があります。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区内の看護学校の生徒の実習先として受入を実施すると共に認知症に関する講義等を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催予定月には書面交付にて情報提供を行っている。	年6回奇数月に開催しています。コロナ禍で書面開催が続いていましたが、昨年の9月より対面での運営推進会議を再開しています。自治会長・地域包括支援センター職員・民生委員の参加を得て、現状や活動報告、地域情報等の意見交換を行っています。家族にも参加を呼びかけていますが、日程の都合で参加いただくことが難しい状況となっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新調査等、必要なものだけとし、市町村担当者とは状況に応じて面会や電話等で連携を取る様、努めている。	介護認定更新時期には、区役所の担当者と連絡を取り合いあっています。その他にも必要に応じて、市役所や区役所の担当者とも連絡を取り合うなど、協力関係の構築に努めています。また生活保護受給の受け入れを行っている関係で、担当課との職員とも定期的に連絡を取り合っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に二度虐待防止法の研修を行い、理解を深め絶対に拘束を行わないという強い気持ちを持ち取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会を3ヶ月に1回開催し、事業所内で身体拘束が行われていないことを確認しています。職員には、年2回の研修をはじめ、身体拘束チェックリストも実施し、身体拘束の理解を深め、拘束は絶対に行わないという強い気持ちを再確認しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項同様。管理者はフロアのラウンド時に職員への声掛け、関りを密にし、相談事がしやすい環境を構築すると共に事前に職員の状況把握に努めている。	身体拘束・虐待防止委員会を3ヶ月に1回開催し、虐待が行われていないことを確認しています。虐待防止チェックリストも年2回実施しています。管理者は、フロアのラウンド時に職員へ声を掛け、関わりを密にし、スピーチロックに近い表現の際には、その場で注意しています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より指導中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記通り。問題なし。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」の設置をしているが、コロナ禍でこちらの使用実績はない。E-mail等で頂いたご要望等に関しては直ぐに反映出来る様、努めている。	コロナ禍で、家族の面会が制限されていたこともあり、家族とのコミュニケーションは、従来の電話だけでなく、メール・ライン等のツールを希望される家族も増えてきていることから、要望に合わせコミュニケーションを取っています。家族とは、メールやラインで常時、意見・要望を伺うようにしており、可能な限り、すぐに反映できるよう取り組んでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部人事担当の面談実施や管理者との面談は要望に応じ常に実施できる体制を構築している。	毎月行われるユニット会議にて、意見・要望を聞く機会にしています。また日常の業務中に管理者がユニットをラウンドする際には、積極的に職員に声掛けして、運営に関する提案などを聞くようにしています。本部人事担当や管理者との面談は、要望に応じ、常に実施できる体制があります。		今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11-8同様	法人は、就業規則を適宜見直し、給与水準などの変更が生じた場合は、すぐに職員に周知しています。シフト作成の際には、希望休を3日までは取れる仕組みになっています。残業も少なく、有給休暇の取得も促すなどして、ライフワークバランスに配慮しています。コロナ禍で中断していた職員懇親会が徐々に昨年末に開催されました。		今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	11-8同様 希望者には資格支援制度の支援を実施しスキルアップの為のサポートを実施している。	事業所内の研修計画を作成し、ユニット会議にて研修が実施されています。外部研修も最近ではオンライン研修が多く、受講しやすいこともあり、レベルアップのために受講を促しています。初任者研修、実践者研修、介護福祉士等の資格取得のための資格支援制度があり、職員のスキルアップを支援しています。		今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在未参加			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ユニットリーダー、計画作成担当者を中心に対応できている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	II-15 同様 コロナ禍にて電話やE-Mail、LINE等のSNSも積極的に利用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	II-15 同様		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	II-15 同様		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	II-15 同様 コロナ禍にて電話やE-Mail、LINE等のSNSも積極的に利用している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて制限中	コロナウィルスの5類移行に伴い、家族の面談は、実施しています。以前の近所の友達が来所する利用者もいます。家族がお連れして、馴染みの美容院に継続して行かれている方もおり、入居後も馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	II-15 同様			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じ手紙等のやり取りにて状況確認を行っている。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。	利用者の意向や思いを把握して介護サービスに繋げるべく、利用者と職員の日常会話の中で、医療・看護などでも使用されるSOAP方式を採用しています。S-主観的情報(利用者の言動) 0-客観的情報(職員の観察・対応)を都度記録し、職員間で検討し、A-評価P-計画につなげています。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。 健康管理等は専門医等から助言をもらっている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている	通常、介護計画は、要介護度の認定の有効期限に応じて、長期目標を設定し、その半分程度の期間を短期目標の期限にしています。2,3ヶ月毎にモニタリングを行い、状況によっては、介護計画の更新も実施します。更新時には、SOAP方式で把握した情報、家族の意見、必要な場合には、医療の意見も参考にして見直しされます。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて制限中		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている	主治医の決定は、利用者・家族の意向に応じて柔軟に対応しています。利用者全員が協力医の月2回の訪問診療を受診しています。一部の利用者が入居前の主治医も併用しています。歯科医は、週1回の訪問診療を希望者が受診しています。看護師は、週1回来て利用者の健康管理や爪切り等の対応をお願いしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部巡回看護師の定期訪問を中心に適切な健康管理が維持できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている	入居時に重度化・終末期の指針を説明しています。実際に、利用者の重度化が進んだ段階で、主治医ができることできないことなども家族に説明し、利用者にとって最良の選択をするべく家族と話し合い、方針を決定しています。看取りを希望される場合には、管理者は、職員に周知し、常に情報を共有しながら、チームとして支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災ハザードマップ等を利用し現在の位置の確認や想定される災害の認識を深めている。避難訓練では広域避難場所まで歩行が可能な方は訓練している。	避難訓練は、火災・地震災害、夜間想定など条件を変えながら年2回実施しています。避難訓練では、広域避難場所である倉田小学校まで歩行可能な利用者は、実際に歩くケースもあります。備蓄品は、水・食糧・衛生用品等に加えて、IH設備ゆえに停電用としてカセットコンロを用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	I-1-1 に基づき実施出来ている	研修計画に接遇研修を入れ、利用者への対応について、人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねないケアを心掛けています。特にトイレの誘導時には、他人に気付かれないようさりげなくお誘いするよう配慮しています。個人情報保護方針を各ユニットの通路に掲示して、利用者・家族へ公表しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	IV-36 同様	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の残存能力が最大に生かせる様、介助者が時間を掛けて待ち、自立した動きへのサポートを実施し、「待つ介護」の実践に努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の支援等では、その日に着たい着衣等を共に選ぶ様な配慮を行っている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる様な食事イベントの開催や誕生日月の入居者が食べたいの物などの事前ヒヤリングを実施し、飽きのこないメニュー策定や共に行える工程を策定している。	食材の手配やメニュー作成は、業者に委託していますが、イベント食、月2回のカレーの日の設定など、飽きの来ないメニュー策定を行っています。誕生日月には、該当の利用者から希望を伺い、お刺身・ハンバーガー・スパゲッティ等の要望に応じています。自立度の高い利用者が多く、片付け、食器拭きなどに積極的に参加いただき、残存能力の維持につなげています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を作成している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施。状態に応じ訪問歯科医との連携をしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人ごとの排泄記録を作成し、失禁に繋がらない時間帯のリズムを作り、排泄の自立の促しを行っている。	利用者毎の排泄記録を作成し、排泄状況の把握に努めています。排泄自立の利用者が多く、失禁につながらないように、定時の声掛けにより、排泄のリズムを作り、排泄の自立をできるだけ長く継続できるよう注力しています。骨折して入院し、オムツ着用にて帰ってきた方も、職員の支援により、リパンツに戻った実績もあります。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取の促しや運動不足を解消できる様、声掛け等を実施している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、入浴前の準備を入居者と共に行い入浴が楽しめる支援を実施している	週2回入浴を基本として、午前中に入浴を行うことが通例になっています。自立度の高い方は、職員の見守りで、一人でゆっくりと入浴を楽しんでいただいています。同性介助を望む利用者には、要望に添った対応で、安心して入浴していただけるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の好みに合わせて居室内の空調調整を行ったり適度な換気ができる支援を実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にトリプルチェックを行い、服薬事故に繋がらない取り組みを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で行うレクリエーションだけでなく個々の時間を配慮出来る日々の流れを構築している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて自粛中。 近隣のお散歩は定期的にも実施中。	散歩の実施は、利用者だけでなく職員にも開放感を感じてもらえる機会にもなり、午後の時間帯で、天候が良い時は、常に近隣の散歩に出かけています。ホーム玄関前の庭のベンチでの外気浴や家族との面会をされる方もいます。家族と外出・外食に行かれています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では現金のやり取りを行う場所がない為、基本的に所持は控えてもらっている。認知症がある為、紛失等のトラブルが発生しやすい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	SkypeやZoomを中心としたやりとり。 年賀状、暑中見舞いを入居者本人が作成し家族等へ送付している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で感じられる空間作りを意識し、尿臭等が充満しない様、過ごしやすい環境作りを意識し構築に努めている	リビングでは、季節毎の飾り付けなどで利用者に季節を感じてもらえる空間作りを意識しています。過度な装飾により施設感っぽい雰囲気にならないよう留意しています。コロナウィルスは5類に移行しましたが、1時間毎の換気は励行しています。リビングのテレビ画面へユーチューブを利用した利用者に興味深い歌や体操の番組を写し、視聴する工夫も行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部と個室の利用をうまく推奨出来ている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用したり、写真等を掲示したり本人の好みに合わせた配慮を実施。	入居時には、使い慣れた家具や備品をお持込でいただき、利用者・家族の好むレイアウトにて配置いただき、利用者が安心して過ごせる居室を設定していただいています。シーツ交換などは、利用者にも手伝ってもらっています。居室担当職員については、現在再編成中です。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、使用上問題は発生していないが状況に応じサインプレート等の表示を変更する。 Ex：トイレ → 御手洗、廁、便器のイラスト		

目 標 達 成 計 画

事業所
グループホーム ふあいと戸塚ガーデン

作成日 令和6年3月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	外出等制限下にて身体能力や認知力低下の恐れ	<ul style="list-style-type: none"> ・SkypeやZoomを使用し家族等と映像や会話を通し認知力低下防止に努める。 ・YouTube等でできる体操等を行う。 ・施設周辺の定期的な散歩 	Webカメラの設置 インターネット回線の設置	なし
	2	外出制限下での疾病の悪化の防止	訪問診療医への早めの情報提供を行い、外来通院に行かない様な準備・配慮を行う。	医師や薬剤師との連携を強め健康管理維持を実施していく	なし
	3	定期的な食事イベントの開催。	季節感のある食事イベントを増やし見当識力低下や嚥下能力低下を軽減していく	入居者も作成にできるだけ参加できる企画を考案していく 出前等を使用し普段と違う食事を提供	適宜
2	1	クラスター発生を起さない	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者を出さない様、インターネットコンテンツを利用し、大声の出ないレクを実施していく。 ・職員の感染予防の徹底 	インターネットコンテンツの利用 抗原検査の実施 予防接種（4回目終了）	コロナ禍が落ち着くまで
3	1	終末期において終の棲家としての役割	希望に応じグループホームで可能な限りの看取りを実施する。	対象者が発生した時点で看取りに関する指針や対応についての話し合い、研修を実施。	適宜

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム ふあいと戸塚ガーデン
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互いを尊重しあい笑顔を絶やさず優しい気持ちで接します」との施設目標を掲げ、ホームに関わる全ての職員が入居者と同じ目線で生活が営める様、取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて自粛中		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区内の看護学校の生徒の実習先として受入を実施すると共に認知症に関する講義等を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催予定月には書面交付にて情報提供を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新調査等、必要なものだけとし、市町村担当者とは状況に応じて面会や電話等で連携を取る様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度虐待防止法の研修を行い、理解を深め絶対に拘束を行わないという強い気持ちを持ち取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項同様。管理者はフロアのラウンド時に職員への声掛け、関りを密にし、相談事がしやすい環境を構築すると共に事前に職員の状況把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より指導中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記通り。問題なし。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」の設置をしているが、コロナ禍でこちらの使用実績はない。E-mail等で頂いたご要望等に関しては直ぐに反映出来る様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部人事担当の面談実施や管理者との面談は要望に応じ常に実施できる体制を構築している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11-8同様		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	11-8同様 希望者には資格支援制度の支援を実施しスキルアップの為のサポートを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在未参加		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ユニットリーダー、計画作成担当者を中心に対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	II-15 同様 コロナ禍にて電話やE-Mail、LINE等のSNSも積極的に利用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	II-15 同様		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	II-15 同様		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	II-15 同様 コロナ禍にて電話やE-Mail、LINE等のSNSも積極的に利用している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて制限中		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	II-15 同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じ手紙等のやり取りにて状況確認を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。 健康管理等は専門医等から助言をもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて制限中		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部巡回看護師の定期訪問を中心に適切な健康管理が維持できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災ハザードマップ等を利用し現在の位置の確認や想定される災害の認識を深めている。避難訓練では広域避難場所まで歩行が可能な方は訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	I-1-1 に基づき実施出来ている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	IV-36 同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の残存能力が最大に生かせる様、介助者が時間を掛けて待ち、自立した動きへのサポートを実施し、「待つ介護」の実践に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の支援等では、その日に着たい着衣等を共に選ぶ様な配慮を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる様な食事イベントの開催や誕生日の入居者が食べたい物などの事前ヒヤリングを実施し、飽きのこないメニュー策定や共に行える工程を策定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を作成している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施。状態に応じ訪問歯科医との連携をしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人ごとの排泄記録を作成し、失禁に繋がらない時間帯のリズムを作り、排泄の自立の促しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取の促しや運動不足を解消できる様、声掛け等を実施している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、入浴前の準備を入居者と共に行い入浴が楽しめる支援を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の好みに合わせて居室内の空調調整を行ったり適度な換気ができる支援を実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にトリプルチェックを行い、服薬事故に繋がらない取り組みを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で行うレクリエーションだけでなく個々の時間を配慮出来る日々の流れを構築している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて自粛中。 近隣のお散歩は定期的実施中。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では現金のやり取りを行う場所がない為、基本的に所持は控えてもらっている。認知症がある為、紛失等のトラブルが発生しやすい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	SkypeやZoomを中心としたやりとり。 年賀状、暑中見舞いを入居者本人が作成し家族等へ送付している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で感じられる空間作りを意識し、尿臭等が充満しない様、過ごしやすい環境作りを意識し構築に努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部と個室の利用をうまく推奨出来ている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用したり、写真等を掲示したり本人の好みに合わせた配慮を実施。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、使用上問題は発生していないが状況に応じサインプレート等の表示を変更する。 Ex：トイレ → 御手洗、廁、便器のイラスト		

目 標 達 成 計 画

事業所
グループホーム ふあいと戸塚ガーデン

作成日 令和6年3月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	外出等制限下にて身体能力や認知力低下の恐れ	<ul style="list-style-type: none"> ・SkypeやZoomを使用し家族等と映像や会話を通し認知力低下防止に努める。 ・YouTube等でできる体操等を行う。 ・施設周辺の定期的な散歩 	Webカメラの設置 インターネット回線の設置	なし
	2	外出制限下での疾病の悪化の防止	訪問診療医への早めの情報提供を行い、外来通院に行かない様な準備・配慮を行う。	医師や薬剤師との連携を強め健康管理維持を実施していく	なし
	3	定期的な食事イベントの開催。	季節感のある食事イベントを増やし見当識力低下や嚥下能力低下を軽減していく	入居者も作成にできるだけ参加できる企画を考案していく 出前等を使用し普段と違う食事を提供	適宜
2	1	クラスター発生を起さない	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者を出さない様、インターネットコンテンツを利用し、大声の出ないレクを実施していく。 ・職員の感染予防の徹底 	インターネットコンテンツの利用 抗原検査の実施 予防接種（4回目終了）	コロナ禍が落ち着くまで
3	1	終末期において終の棲家としての役割	希望に応じグループホームで可能な限りの看取りを実施する。	対象者が発生した時点で看取りに関する指針や対応についての話し合い、研修を実施。	適宜

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム ふあいと戸塚ガーデン
ユニット名	しおさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互いを尊重しあい笑顔を絶やさず優しい気持ちで接します」との施設目標を掲げ、ホームに関わる全ての職員が入居者と同じ目線で生活が営める様、取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて自粛中		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区内の看護学校の生徒の実習先として受入を実施すると共に認知症に関する講義等を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催予定月には書面交付にて情報提供を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新調査等、必要なものだけとし、市町村担当者とは状況に応じて面会や電話等で連携を取る様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度虐待防止法の研修を行い、理解を深め絶対に拘束を行わないという強い気持ちを持ち取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項同様。管理者はフロアのラウンド時に職員への声掛け、関りを密にし、相談事がしやすい環境を構築すると共に事前に職員の状況把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者より指導中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記通り。問題なし。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」の設置をしているが、コロナ禍でこちらの使用実績はない。E-mail等で頂いたご要望等に関しては直ぐに反映出来る様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部人事担当の面談実施や管理者との面談は要望に応じ常に実施できる体制を構築している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11-8同様		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	11-8同様 希望者には資格支援制度の支援を実施しスキルアップの為のサポートを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在未参加		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ユニットリーダー、計画作成担当者を中心に対応できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	II-15 同様 コロナ禍にて電話やE-Mail、LINE等のSNSも積極的に利用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	II-15 同様		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	II-15 同様		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	II-15 同様 コロナ禍にて電話やE-Mail、LINE等のSNSも積極的に利用している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて制限中		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	II-15 同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じ手紙等のやり取りにて状況確認を行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている。 健康管理等は専門医等から助言をもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて制限中		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部巡回看護師の定期訪問を中心に適切な健康管理が維持できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者や計画作成担当者を中心に対応できている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災ハザードマップ等を利用し現在の位置の確認や想定される災害の認識を深めている。避難訓練では広域避難場所まで歩行が可能な方は訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	I-1-1 に基づき実施出来ている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	IV-36 同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の残存能力が最大に生かせる様、介助者が時間を掛けて待ち、自立した動きへのサポートを実施し、「待つ介護」の実践に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の支援等では、その日に着たい着衣等を共に選ぶ様な配慮を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる様な食事イベントの開催や誕生日の入居者が食べたい物などの事前ヒヤリングを実施し、飽きのこないメニュー策定や共に行える工程を策定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を作成している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施。状態に応じ訪問歯科医との連携をしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人ごとの排泄記録を作成し、失禁に繋がらない時間帯のリズムを作り、排泄の自立の促しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取の促しや運動不足を解消できる様、声掛け等を実施している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、入浴前の準備を入居者と共に行い入浴が楽しめる支援を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の好みに合わせて居室内の空調調整を行ったり適度な換気ができる支援を実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前にトリプルチェックを行い、服薬事故に繋がらない取り組みを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で行うレクリエーションだけでなく個々の時間を配慮出来る日々の流れを構築している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて自粛中。 近隣のお散歩は定期的実施中。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では現金のやり取りを行う場所がない為、基本的に所持は控えてもらっている。認知症がある為、紛失等のトラブルが発生しやすい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	SkypeやZoomを中心としたやりとり。 年賀状、暑中見舞いを入居者本人が作成し家族等へ送付している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で感じられる空間作りを意識し、尿臭等が充満しない様、過ごしやすい環境作りを意識し構築に努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部と個室の利用をうまく推奨出来ている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を使用したり、写真等を掲示したり本人の好みに合わせた配慮を実施。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在、使用上問題は発生していないが状況に応じサインプレート等の表示を変更する。 Ex：トイレ → 御手洗、廁、便器のイラスト		

目 標 達 成 計 画

事業所
グループホーム ふあいと戸塚ガーデン

作成日 令和6年3月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	外出等制限下にて身体能力や認知力低下の恐れ	<ul style="list-style-type: none"> ・SkypeやZoomを使用し家族等と映像や会話を通し認知力低下防止に努める。 ・YouTube等でできる体操等を行う。 ・施設周辺の定期的な散歩 	Webカメラの設置 インターネット回線の設置	なし
	2	外出制限下での疾病の悪化の防止	訪問診療医への早めの情報提供を行い、外来通院に行かない様な準備・配慮を行う。	医師や薬剤師との連携を強め健康管理維持を実施していく	なし
	3	定期的な食事イベントの開催。	季節感のある食事イベントを増やし見当識力低下や嚥下能力低下を軽減していく	入居者も作成にできるだけ参加できる企画を考案していく 出前等を使用し普段と違う食事を提供	適宜
2	1	クラスター発生を起さない	<ul style="list-style-type: none"> ・感染者を出さない様、インターネットコンテンツを利用し、大声の出ないレクを実施していく。 ・職員の感染予防の徹底 	インターネットコンテンツの利用 抗原検査の実施 予防接種（4回目終了）	コロナ禍が落ち着くまで
3	1	終末期において終の棲家としての役割	希望に応じグループホームで可能な限りの看取りを実施する。	対象者が発生した時点で看取りに関する指針や対応についての話し合い、研修を実施。	適宜

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。